

F

A

B

レ

ポ

ー

ト

No6

2011.7.21

発行

～サポート室便り～ 

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えます

## 8/10女性研究者サポート室のご紹介

当学のオープンキャンパス開催に合わせて、女性研究者サポート室の紹介を下記の場所で行います。

**旦野原**：教養教育棟1階 多目的スペース（9：30～15：30）

**挟間**：臨床大講義室前（13：00～16：00）

教職員のみならず、この機会にお立ち寄りください。

## 月刊トピックス

### 実はこうだった！熱中症対策



効果のある熱中症対策をご紹介します。

- ・塩分補給の真実 → 大量の汗をかいた場合に補給する
- ・暑さに強くなるウラ技 → 運動後に牛乳などを飲むこと
- ・効率的に涼しくなる方法 → 首を冷やすこと

NHKためしてガッテンより。詳細はこちらへ<http://www.nhk.or.jp/gatten/>

P i c k  
u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

**工学部 准教授 園井 千音さん**

## 『 研究者のライフスタイル 』

大学や研究機関における研究者のライフスタイルには概ね三つの側面があることを自覚しています。第一は研究を持続させる知的体力を維持する苦勞です。研究生活は、一つの成果を達成するために長い忍耐が続きますが、結果が出た時の喜びも束の間、また新たな課題に取り組む苦勞が始まることの繰り返しです。常に複数の研究課題を抱えているために解決までの見通しが立たず精神的に苦しくなる場合もあり得ます。さらに、研究姿勢として、課題を大所高所から見る俯瞰的視野と、問題点を絞りそれを深く検証する視点が求められます。これらマクロとミクロの見方は絡んでいることが必要です。また特に人文科学分野の研究課題選択においては、実利的結果や時流に左右されることなく、その学問分野における普遍的問題の解明に収斂するものでなくてはなりません。日常の研究において以上のような意識を持続させる緊張感も研究者の苦勞を増す要因となります。

研究者の生活に見られる第二の側面は、これはおそらく研究分野の性質にかかわらず望ましいことですが、その道で人間としても尊敬することができる良き師や友を持つことといえましょう。知的刺激や学問的議論のみならず、ものの考え方や、生き方等について、あるべき姿を示唆してくれる師や友の存在は悩みの多い研究生活における精神的支えとなってくれます。

第三に、これがあるいは現実的に最も肝要な心得かもしれませんが、コンスタントな研究続行の姿勢を自分のライフスタイルとして容認することができ、日常的、非日常的葛藤も克服し、あるいはそれらをしなやかに「流す」精神力を養成しておくことが必要に思われます。特に女性の場合は、出産や育児、その他女性に固有の諸々の社会的事象が、研究生活と同時に起こってくる場合があります。それらを、それはそれ、これはこれ、すなわち“business as usual”の精神により、切り抜ける覚悟が必須のように思われます。

最後に、大分大学が以上の3つの点を備えた女性研究者を今後も多数輩出する知的空間となることを強く願っております。